

平成29年度 第1回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

平成29年9月26日 開会

平成29年9月26日（火曜日） 平成29年度寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹		
寒河江市教育長	草苺和男		
寒河江市教育委員	松田彌生子	鈴木淳一	
	國井晴彦	高橋まり子	

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	竹田浩	総務課課長補佐	佐藤倫久
学校教育課長	佐藤和好	指導推進室長	山口義博
生涯学習課長	高林雅彦	スポーツ振興室長	鈴木隆
学校教育課課長補佐	國井協一	学校教育課課長補佐	白田純一

○ 日程

平成29年度 第1回総合教育会議日程
平成29年9月26日（火曜日）

午後3時00分 開議
市役所 議会会議室

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
 - (1) ICTを活用した情報教育の推進について
 - (2) 生涯スポーツの状況について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

1 開 会 午後3時00分

○國井協一学校教育課課長補佐

ご苦勞様です。定刻になりましたので、平成29年度第1回寒河江市総合教育会議を開会したいと思います。最初に、市長あいさつ。よろしくお願いいたします。

2 あいさつ

○佐藤洋樹市長

今年度、第1回目の総合教育会議。新たな教育委員会制度が発足した、平成23年5月この会議を作っていただいて、教育委員会と市長部局の意見交換等を通して、より良い教育をしていくということが会議の目的になっています。

教育をめぐる問題は多々ある訳ですが、子どもをめぐる環境は、大変厳しくなっているのではないかとされておりまして。そういう中で、間もなく行われる国政選挙等においても、教育について国を挙げての取組などが課題となるような気配もある訳ですが、寒河江市の今日的な教育問題、課題について、それぞれ検討をさせていただいて、子ども達のために有意義で充実した会議にさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○國井協一課長補佐

ありがとうございました。それでは、3番の協議に入りますが、寒河江市総合教育会議設置要綱第3条により、座長を佐藤市長にお願いいたします。

○佐藤洋樹市長

それでは、協議(1)ICTを活用した情報教育の推進について、説明をお願いいたします。

○山口義博指導推進室長

議題の(1)について、私の方から概要を手短にご説明申しあげたいと思います。

ICTを活用した情報教育の推進ということで、お手元の資料をご覧ください。本市の第6次振興計画の施策3には、各学校において情報通信技術、ICTの積極的活用を図るとともに、情報モラル教育を推進しますと明記してあります。更に、第2次寒河江市教育振興計画の中の主要施策の3番目には、情報化やグローバル化に対応した教育の推進ということで、ICTを活用した情報教育の推進が掲げられております。その中で現状、課題、或いは主な取組を申しあげますと、一クラスの人数分のコンピューターは整備してあるのですが、電子黒板については各学校の規模に応じて、各階1台なり2台の電子黒板が設置してあります。その中でICTの効果的な活用がなされているという現状があります。更に、情報モラルを含めた情報教育を充実させるための取組をしているのが現状であ

ります。

その主な取組としては、3点程あげておりますけども、いわゆるコンピューターやICT、電子黒板等を効果的に使った授業の創造ということがまず1点。それから1ページの下の方、ICTを活用した多様な学習の創造支援が2点目、3点目としては情報モラル教育の推進として、主なICTを活用した情報教育を推進している現状があります。資料をめくっていただいて、具体的にどんな授業をしているのかについては、3ページ目になります。具体的に学校では、一斉学習、個別学習、協働学習といろいろな活用事例の中で、ICTを活用して授業を展開しております。その下の表を見ると学校の欄干表とか、大型テレビ、電子黒板など、今世の中にある様々なデジタルコンテンツを使いながら、ICTを活用した効果的な授業が展開されているということです。

4ページには、写真が沢山ある訳ですが、ICTを活用した授業の良い点は、そこに書いてある通りです。電子黒板等を使いながら、画像、音声、動画で迫力のある授業が展開できる。生徒が活用しているものを取り上げて焦点化し、学習課題の共有化とか理解を深められる授業が出来る。更には5ページ、ICTを使った調べ学習は勿論ですけれども、発表や話し合いの中で、将来子ども達にとって必要とされるであろうプレゼン能力も、これらを活用することによって身につけて行くということが言えるのではないかと思います。

例えば社会科の自由研究等は、昔はレポート用紙にまとめて模造紙とかに書いて掲出をしていたのですが、今はパワーポイントにまとめて、そのまとめたものをみんなの前で発表するような自由研究を課題にしたことがあります。それにはやはりICTの設備とか、子ども達にとっては使い方も勉強しなければならないと感じております。更にICT教育の中で、グローバルな視点から言いますと、学校の壁を超えた学習ということで、インターネットのスカイプ機能などを使って、遠隔地の学校や専門家との意見交換や授業交流等があげられます。一例をあげますと山間部にある小さな学校と海沿いの学校が同時にいろんな意見交換したりする授業も、ICT整備によって可能となります。

ICTの授業を行うにはいろんな機器、設備が必要となり、記載されているものはその一例になります。電子黒板、コンピューター、投影機というのがありますが、電子黒板等は大きいので移動がしづらく、1台購入すると、おおよそ50万円から100万円位になります。移動式のプロジェクター型電子黒板は、1台20万円程度ですから、大きい電子黒板からすれば、小さい電子黒板が2台買えることができ、黒板にそれを投影するという事で、代替えが出来ます。これは移動が可能ですので、特に中学校あたりは、使い勝手が良かったようです。更にはソフトということになる訳ですけれども、今現在全国的にもデジタル教科書がどんどん入っているようですので、そのデジタル教科書と電子黒板を使いながら提示するという事で、教育的な効果が大きくなります。やはりデジタル教科書をコンピューターに入れておけば、その電子黒板に、デジタル教科書のコンテンツや動画、地図とかが再生できるので、いちいちビデオ等の機器に繋いだりする必要がない等が

あげられます。実際ICTの整備状況について、9ページに記載されておりますが、そこには第2期教育振興基本計画で目標とされている、本市の整備状況が書いてあります。ICTの場合には、ソフトとハード面、両方の整備が必要となってきます。予算も計画的に進めていかないと難しい面があります。これは寒河江市に限ったことではなくて、全国的に同じような現状があります。デジタル教科書の導入も、教科書が採択される4年に一度のタイミングに合わせて予算化し、導入できるのではないかと考えております。

限られた予算や設備の中で効果的に使用していくことで学力向上に繋がっていくものと思います。最後の情報モラルということで、インターネット環境が整って、子どもが慣れてくるようになると同時に情報モラル教育についても取り組んでいかなければならないので、学校全体、あるいは家庭を含めた社会全体で、折にふれて研修、啓発をしていかなければならないと考えております。今回の教育フォーラムでは、こういうことを中心に考えていきたいと思っております。以上、大まかですがICTを活用した情報教育の推進の概要について、ご説明申しあげました。

○佐藤洋樹市長

それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思っております。

○鈴木淳一委員

ICTを活用した情報教育の推進ということですが、このICTとはインフォメーション・コミュニケーション・テクノロジーの頭文字を指すということで、現在インターネットが普及し情報がとても簡単に入るようになりました。更に人工知能の開発により、自動運転技術も開発している時代でございます。現在の子供たちは生まれた時から、スマホやタブレットがある中で育ち、デジタルに抵抗の無い世代でもあると言えます。辞書も紙から電子辞書になり、日記や連絡網もデジタル化して、デジタルの中で暮らしているといってもいい時代だと思います。寒河江市でも、先程説明があったように、学習にICTを活用した情報教育の推進を、ここ数年前から取り組んでいます。機材についても先程の説明のとおりだと思います。でも私くしどももそうですが、一般の方は初め電子黒板のイメージをどのように思っているのかなと聞きますと、現在の黒板自体がデジタル化し、テレビ画面のようでタッチパネル操作できるような凄い教室を想像しているようです。あらゆるデータが簡単に、一瞬で取り出すことができ、世の中すごい時代になったなと想像している方もいらっしゃいました。しかし実際はホワイトボードの様なもので、ノートパソコンを接続して、画像、動画を掲示したり、投影機で書物を映し出したりできるものでした。正直、これで何が出来るのだろうと、疑問を感じた方もおられるようでした。私たちが学校訪問をした際、ICTを活用した授業を見学したことがございます。その時は算数の時間でしたが、児童生徒達は、電子黒板の画面を見つめ、形や長さが動いたり、丸の数が消えたり増えたりして、テレビを見ながら授業をしている風景でした。

初めて目にしましたが、普段の授業より面白そうに集中して学んでいる姿が見えました。その画面の切り替わりが早く、黒板を消すようなアナログな授業ではなく、次から次へと進めることで、とても便利なものなのだなと初めて感じた次第でした。教科によって使用は様々ですけれども、先生方には学力向上のため活用していただきたいと思います。

ICTの最大の魅力はデジタル教科書だと思っています。最近のニュースでは、2020年度から導入の話があるようです。現状では先のこととは思わず、私どもとしても検討していくべきと考えます。その場合のICTの授業のイメージは、資料の9ページにあるように、各児童・生徒が1人1台タブレット端末を持つような光景になると思われます。

では、タブレットでの勉強とはどんなものなのかを調べてみますと、成績のデータ管理や苦手分野の克服に役立つような個別授業ができ、教員が各生徒のレベルを素早く判断でき、画面一つで様々なことができ、学力向上につながる可能性があるといわれています。デメリットは、これらを使うために覚えなければならないこと。動かなくなった時に授業がストップしてしまうことが考えられます。そのために専門職の指導員も常時いなくてはなりませんし、これらにかかる予算も多額になると思われますが、ある塾や通信講座では、タブレット活用勉強法が始まっております。2020年を目標に、我々も中長期的に対応を模索すべきと私は考えます。こういった情報化やグローバル化に対応した教育をしていくと、必然的に情報モラル教育も必要となる訳です。はっきり言っていいほど、機器の扱いは若い方にはかえりません。最近の機器の進化により、音楽プレーヤー・ゲーム機でも、ネットにつながる時代です。この機器の所有が小学生6割・中学生8割であり、簡単にインターネットを利用できるようになっています。インターネットの使用はだめと言っても、やってみたいと思うのが子どもです。

携帯電話については、小学生でも約3割・中学生で4割が所有し、高校生になれば、ほぼ全員所有している時代です。使用ルールは家庭において決めていると思いますが、ネットトラブルに巻き込まれないように、様々な組織で対策を考えているようです。その方々による講習会に私くしも何回か参加したことがあります。やはり教えていただかないとトラブル発生の実情がありますので、必要な授業なのだと思います。安心してこの時代に生きていくには、情報モラルの教育は低学年の時から中学生まで、それぞれ対象学年に応じた教育とルールが必要ではないかと考えています。以上でございます。

○佐藤洋樹市長

ありがとうございました。その他、皆さんからありませんか。

○草薙和男教育長

電子黒板のことですが、資料の中にもありますけれども、平成26年度から電子黒板を各学校に各階1台、大きい学校は各階2台位ずつ計画的に設置し、一応すべての学校に整ったということになりますが、委員の皆さんは学校訪問をされて、電子黒板を使っている

先生、使っていない先生といろいろだった訳で、また使い方についてもいろいろでした。電子機器の最先端のものは、得意不得意があるので、高年齢の方は中々研修しないと十分に使えないのかなと思って見ていました。でも若い方についてもちょっと工夫して、授業の中で生かしている方もいらっしゃる。やっぱり折角の電子黒板という最先端の機器を授業の中で生かしていけるように、広めていかなければならないと思いました。

○佐藤洋樹市長

松田委員はいかがですか。

○松田彌生子委員

昔は、黒板とかOHPを使って授業をしていた者にとって、私自身今から9年位前に初めて電子黒板を使った授業を見て、なんて凄い教育機器が学校現場に入って来たことにびっくりしたことを覚えています。鈴木委員と教育長さんが、おっしゃった様に、本当に子ども達は映像が出てきますので、興味を持って飛びつきますし、良いものだと思いますが、先生の指導技術が重要になったなと思います。授業の準備をするのも大変でしょうが、教科の特性を生かして、全教科とは言わず、理科とか社会とか、効果がある教科に一生懸命に取り組んだことで、子どもに学力がきちんと付くような使い方を、先生方に工夫していただきたいなと思います。

○佐藤洋樹市長

はい、國井委員。

○國井晴彦委員

先生方は、どうしても自分の経験から職人的になりがちで、教え方についてもこれまで黒板使っていたものを、いきなりパソコンとかICT機器を使ってやるのは難しいと思います。昔電卓が出た時に、そろばんの方が早いという人もいました。ICTについては先生が講習を受けることで、児童生徒への技術的な教え方を習って広めていくことが大事になると思います。不慣れな先生にやれやれと言っても難しい。子ども達には、とにかくパソコンとかタブレットを触らせることが、大切だと思いますし、ICTを利用することでインターネットを安全に利用出来るよう、しっかり教えていくことも大事なことだと思います。

○佐藤洋樹市長

はい。高橋委員。

○高橋まり子委員

國井委員がおっしゃっていた、デジタルコンテンツを使った環境は、私たち大人以上に、今の子ども達の方が、生まれた時から触れており、身近なものに既になっている。それに遅れているのが、大人であると思うので、教育の現場である先生たちには、それに遅れることなく、先取りするような形でどんどん将来的なものを見据える意識が大切だと思います。今、教員の年代の分布を見ますと、ばらつきが非常にあるということで、上の世代の先生が多いという現状を踏まえますと、得手不得手もありますし、年代の特性もありますので、こういった機器を使う事に、取り組みにくい状況があると思われます。そういう方たちに研修を促すことも大事とは思いますが、ICTの教育に対してのデメリットという面も、今徐々に出てきていると思います。大学の授業レポートは、パソコンで提出という時代になって来ており、そこでは板書する機会が減っていて、言葉の語彙もなくなってきており、文章能力や漢字能力の低下が大学生に非常に見られるようになっている。文章を書くについても、長いレポートではなく、携帯のラインの様なやり取り、文章が短文化されている事実や、ラインのスタンプのように言葉にせず自分の気持ちを、ポンと伝えてしまうということが、コミュニケーションを取っていくのに、スタンプの表情だけではわからない。もっと言葉で伝える能力というの、これからどんどん大事になってくるのかなと思われます。そういう問題点も踏まえますと、今の年代の上の人たちがICTを使わないで、ずっと教育をやってこられた先生たちの、生で伝えるアナログ的な良さをしっかりと若い先生達に伝えていくのも、非常に大切ではないのかなと思っています。

ICTの設備や能力のスキルを学ぶ能力も必要ですし、活用していくために先生方の時間的なことを考えますと、今以上に先生達のゆとりが持てるように、ICTだけじゃない、先生方の支援を同時に考えて行かないと、一方的な負担になって終わってしまうことのないようにすることが必要と考えます。

○佐藤洋樹市長

実際、今先生方に対する研修はどの程度やっているのですか。

○草薙和男教育長

そうですね。教育センターや市の教育研究所でおこなったりとかしています。また得意な先生が講師をして、校内研修として実施する学校もあります。

○佐藤洋樹市長

全体的なレベルを上げていくという点では、どうでしょうね。

○草薙和男教育長

パソコンが初めて導入された当時は、随分パソコン研修会も頻繁に行われていたのですが、最近は色々な研修会があるので、パソコンの研修だけとはならないようです。

○佐藤洋樹市長

パソコンの整備状況としては十分でない状況のようですが、基本的には一人一台が理想ということですよ。いつも使えるという状況ではないということですか。

○草苺和男教育長

そうです。クラス単位の生徒が、パソコン教室に移動して、その時間は一人一台で使えるという状況になります。

○國井晴彦委員

図書館あたりに、タブレットを10台とか20台位常置しておいて、子どもに慣れさせるということをしないと、タブレットに慣れた子と慣れない子では、どんどん格差が広がって、出来る人間は先生を追い越してしまうくらいに、どんどん触れさせる環境にすることが必要と思います。

○高橋まり子委員

物さえあれば、子どもの方は進んで触ると思いますが、それを把握する大人が問題です。

○國井晴彦委員

パソコン教室に行かないとパソコンに触れられないより、図書館にあることで触れやすくなるのではと思うのですが。

○草苺和男教育長

なるほど、図書館には、蔵書検索用のパソコンしかありませんからね。

○國井晴彦委員

パソコンで、すべて調べられれば図書館はいらなくなるかもしれませんね。

○佐藤洋樹市長

確か、総務省の補助事業で高松小学校にパソコンを導入しましたね。

○鈴木雅寿指導推進室長補佐

当初、一人に1台のパソコンを配置しましたが、徐々に故障するパソコンが増え、修理ができる予算がないため、学年を絞っての利用で、現在はだいぶ前の機種ですので、修理できない状況になっています。

○佐藤洋樹市長

絶対必要というものではなかったのですか。

○鈴木雅寿指導無推進室長補佐

学校から、更新の要望は出ておりました。

○佐藤洋樹市長

全国の自治体の中には、重点的にICT教育に特化したところもあるようですが、それをうまく活用し、学力向上に役だせることが大切だと思います。予算を付ければ台数は増えるのですが、問題は中身で具体的にどのような効果があらわれるのかが見えてくるといのですが。教育委員の方は、県外視察研修には行かないのですか。

○草苺和男教育長

県外はないです。県内だけです。

○佐藤洋樹市長

県内は、すぐわかるので、県外の先進地事例視察は必要と思うのですが。一生懸命な所を是非視察して、メリットだけでなく、デメリットも研修してみてもどうですか。6月の市議会からタブレットを使い、我々も議会開会中は、そういうものを使わせてもらっていますが、うまく活用するには時間がかかると思われます。

○草苺和男教育長

先生方も、パソコンを使っていて不具合がおきると、どうしても敬遠してしまうようです。得意な先生がいて、すぐ直してもらえると活用するのですが、そういう先生がいないとどうしても敬遠してしまうという差が出てしまうようです。情報教育を支援してもらえ、講師みたいな方を常時巡回してもらうような要望も出しているのですが。

○佐藤洋樹市長

寒河江の教育の特徴を、どのようにしていくのかの素材としてはあると思うのですが。先進地視察もその意味で必要と思います。将来のために有効な先進地視察の予算は確保させていただきます。他にICT関係のご意見はありませんか。

それでは、(2)生涯スポーツの状況について、スポーツ推進室長から説明をお願いします。

○鈴木隆生涯学習課スポーツ推進室長

生涯スポーツの状況ということでありますので、お手元の資料、スポーツ推進計画で説

明をさせていただきたいと思います。今年はこの推進計画の中で、どのようなことをやっているのかについて、お話をさせていただきます。

最初に、この推進計画については、平成28年3月に策定をしまして、市の第6次寒河江市振興計画とともに、その実現に向けて取り組んでいることとなります。この基本計画の中では、大きく4つの基本方針が設けてありますが、今年度につきましては、基本方針1の障がい者のスポーツ参加の推進ということで、春先にグリバーさがえの方で、第1回トライアスロン大会を開催しましたが、こちらの方は障がい者の方も参加できました。

眼が見えない人には、サウンドテーブルテニスという競技がありますので、昨年視力障がい者団体ともお話をしました。要望等もありましたので、購入し障がい者の方からも研修を受けていただきながら使っていただく。更に2020年には、パラリンピックもありますので、健常者の方にも障がい者スポーツはどのようなものか体験してもらうことも必要かと思っています。サウンドテーブルテニスは、ピンポン玉の中にビーズが入っていて音が出るものになっています。バウンドしないで転がしていくゲームになっています。このようなことで、障がい者スポーツの振興を図っていきたいと思います。

基本方針の2の中では、スポーツ指導者、審判員の資質向上ということで、指導者の研修会といったものを実施し、取り組んでいく。全国規模の大会の開催では、全国高校総体の取組の推進ということで、寒河江市では今年7月に行われました、男子バレーボールが無事終了することが出来ました。参加者につきましては、監督選手等合わせて4000名、寒河江市内の宿泊につきましては、6カ所の宿泊施設で約1500名利用されております。これにつきましては、バレーボール競技だけでなく、カヌー競技とか、天童で行われた陸上競技の方も泊られております。この期間、寒河江には7千名の方が来られインターハイを見学されております。

基本方針の3であります。スポーツ団体の育成ということで、市体育協会の法人化支援は今年5月に一般社団法人ということで、法人設立を致しました。現在は、旧土地改良区事務所跡に事務所を構えまして、いろんな競技団体の事務的なことをやっていただいております。これからは体育の振興に向けて、もっともっと頑張ってください。スポーツ振興室と共に事業を展開し、イベント等にも取り組んでいただくことを期待しています。スポーツ施設の整備と充実ということでは、インターハイ関連で体育館アリーナを全面改修しております。照明ではLED化し明るさを向上させることで、全日本レベルの大会を開ける基準にもって行ったことと、床も全面改修をしたところです。

更には基本方針4であります。プロスポーツの観戦の促進ということで、寒河江市はモンテディオ山形を支援する会がありますので、そちらの方を中心にして、9月2日は寒河江の日ということで、市民の方が試合を観戦する企画で、モンテディオとタイアップをして事業展開しております。最後に、東京オリンピック・パラリンピック競技の推進ということで、政策企画課が中心となってホストタウン認定に向けて、スケートボード競技については、今後競技者の技術向上や交流などの面において推進して行く必要があります。

以上です。

○佐藤洋樹市長

それでは、教育委員の皆さんから、ご意見等お願いします。

○國井晴彦委員

寒河江市の状況ということで、説明がありました。配布された資料を見ましたら、寒河江市の中で行われているスポーツは色々ですが、依然とあまり変わらない、いきいきしてこないとか、今度このスポーツやってみようかなという気持ちが沸いてこなかったのです。もうちょっといろんな競技種目団体を立ち上げて、徐々に独立した方法で活動して行くような、若者に人気のあるスポーツとか、現在はマイナーなスポーツ、他の市町村では力を入れていないスポーツとか、世界的にはメジャーなスポーツなどを支援することも必要と思われれます。9月24日の日曜日、NHKのニュースで長野県小布施町、人口1万5千人の町ですが、浄光寺という寺の住職さんが、境内を会場にスラックラインの大会を開催し、それがどんどん発展してワールドカップを、このあいだ開催したということです。世界中から人が集まって凄いなと思いました。ロープを張って、その上で跳ねたりする競技のワールドカップを世界で初めてやったということで、面白いなと思いました。こういう小さい町でも、こんなことができるんだと思いました。チェリークアパークのスケート場で、寒河江市民や沢山の人を集めてこんな競技が出来るんだという様に、外に向かってやってもらいたい。去年はトライアスロンとか、ツールドさくらんぼの自転車とか、普通の駅伝やマラソンではなく、山間を走るトレイルランニングとか、オリンピック競技のボルダリングとか色んなものをもっと紹介して、若い人から、こんなことを寒河江市はやるのかというように、目を向けてもらえるような雰囲気的なものを作ってもらえないかと思いました。どうしても目が若い人に行ってしまうのですけれども。ソフト面に関しては、少子化の中でスポ少の説明もありましたが、最近スポ少がどんどん減っております。特に野球のスポ少は急激に減っております。逆に、野球やサッカーのクラブチームへ非常に流れています。その中で、スポ少レベルでも指導者と保護者が、頑張って非常にいい成績を上げて、人も集めているところもあります。ところがそのように活躍する、いい成績を上げて、運営面、予算で大変苦勞している場面もありますので、そういう所にはもう少し補助をしてほしいと思いました。ハード面に関しましては、最近サッカー人気で陵南中のサッカー部を見ると40人～50人と1学年でサッカーチームを作れるような状況になっております。スポ少レベルも1学年で20人位いる状態です。野球とは全く正反対。そこから比べると、例えばこの前、庄内町余目に、非常に整備された人工芝のグラウンドがあり、米沢市では転んでも膝を擦りむかない、怪我しないようなグラウンドがどんどん整備されている中で、寒河江市は特化しているところはないのかなと思います。長岡山にはないのかなとか、いろいろ人から聞くのですが、サッカーでモンテディオを応援する

という雰囲気の中で、子どもがどんどん減っていく。子ども達が成長して、中学校、高校の時に、社会に出てもサッカーをやっている方が結構いるので、ナイターで遊べるようなサッカーグラウンドとか、交流するところがないのかな。天童には行くと思うのですが。そういうのがあると、まだまだ若者の定着率とか、若者の理解が出て来るのではないかと思いますし、いろんな大会も誘致できるのではないかと思います。人気のスポーツについてもそのように考えられないのかなと思いました。また、陸上競技場も長岡山グラウンドと寒高のグラウンドを介してやっているような段階なので、公認のものでなくても人工芝のサッカーが出来るような、子ども達が気持ちよくスポーツできるような、運動場があるといいなと周囲の方から言われています。

○佐藤洋樹市長

はい。ありがとうございました。その外何かありませんか。

○高橋まり子委員

今、國井委員の話しにもありましたけれども、設備が良くなるとスポーツ人口も増えるのではないかということについては、資料の中で各施設利用の分布図がありましたが、それを見ましたら、テニスコートが平成12年度まで、大体6千人から7千人位の利用者数だったのが、平成13年度から1万人ほど増えて、1万6千人～1万7千人規模に跳ね上がっています。その理由は何ですかと聞いたら、テニスコートの改修をしているということだったので、全天候型の人工芝があれば、非常に利用者数がてき面に増えるのではないかなと思います。そのためには、予算もかかるのでしょうから、大型の予算をどの市でもかけられるということではないと思うので、寒河江市だけではなくて、近隣の市町村も含めた大きな枠組みで取り組まないと、効果的に投資できないのではないかと思います。私は文化団体を持っていますが、やっぱりスポ少と同じように、非常に人数が減っておりまして、世の中の流れと同じように、人数が減っていくものに関してはどんどん規模が小さくなっていく傾向があり、もともと人数が増え始めているところには、人が寄っていくという傾向が、凄く如実にあるなと感じているところなので、そういった面も含めて、寒河江だけではなく近隣市町村も含めて、大きな枠組みで効果的に呼びかけていくことが大事と感じているところです。

○佐藤洋樹市長

はい、松田委員。

○松田彌生子委員

今、ハード面の話しが出ていますが、チェリーナさがえが出来てから、スポーツを気軽

に楽しむ人々が増えて来て、私はとってもいいなと思っています。近所の人もアスポーツさがえに入って、いろいろ活動して楽しいという声を聞いてよい傾向になったと思います。

ただこの頃思うことは、地域の運動会とかバレーボール大会とか、地区をあげてのソフトボール大会があるのですが、そこに集まることで地域の輪が広がって、おじいちゃんやおばあちゃん達も孫や子ども達のことを応援して、いい光景だなという感じを持っているのですが、最近は運動会的なところに参加する町内会が減っており、今年出ないんだということも聞かれるようになりました。やっぱりみんなが気軽にスポーツに取り組めるよう、近くの町内会と一緒に合同で出ようか等の工面とか、出にくいものはルールを少し見直すなど、沢山の人たちがスポーツに参加できる工夫や企画をしていかないと、少なくなつたから出なくてもいいやとなつたら困るなと思うので、そこを何とか行政面で助けに行かないと駄目だなと思ったところです。

○佐藤洋樹市長

はい、鈴木委員。

○鈴木淳一委員

先程の基本方針の中で、2番の指導者、審判員資質向上のために、新たな補助事業を実施とありましたが、私の娘もソフトボールをしておりますが、大会だけ審判が来てくれるわけではなく、練習試合の時からボランティアで審判に来てもらう訳です。そのボランティアの方も大体年配の方が多く、人数もかなり少ないのが実情です。しかし資格がないと審判を出来ないことや、資格を取るにもお金や時間がかかり、更にボランティアでやっってもらっているということから、かなり厳しいのではないかと感じております。雨が降るとその日予定していた試合が出来なくなって、次週に順延となる訳ですが、そうすると審判員の都合があわず、この日は来られないと言れたり、審判がいなため試合が出来ない状況となるので対策が必要と考えているところです。

○佐藤洋樹市長

はい、教育長。

○草苺和男教育長

身近なスポーツに取り組めるのは、各地区に体育協会があり、いろいろ行事を行います。私のところでも春にはレクリエーション大会、冬にはソフトバレーボール大会を実施しているようですが、そういった身近な単位で、しかもニーズに合った内容で出来るだけ多くの地区民に参加してもらって、スポーツに親しんでもらえということは、とても大事なことだなと思います。子どもの頃からスポーツを沢山する子と全くしない子の二極化

してきております。そういう意味では、学校でもいろいろな運動に親しませることでその素地を作って、大人になっても地域行事や市町村の取組に参加できるような人や環境を作っていくので大事と思いました。

○佐藤洋樹市長

いろいろご意見をいただきましたが、最初に鈴木室長から説明がありましたが、健常者の方のスポーツ活動を推進して行くだけではなく、障がいを持っている方もスポーツをしやすい環境を作っていくという視点が足りなかったところがありますが、グリバーさがえは、トライアスロン競技には絶好の場所で、会場全体が見渡せる造りで、一つのエリアで大会が実施出来る。この前全国トライアスロン協会の方が来寒されて、2020年のパラリンピックの練習会場などにも使っていければという話がありました。そういった意味でも新しい分野のスポーツの振興に役立っていけるのではないかと思います。その他いろいろな注文があれば整備をして行きたいと思います。

國井委員からは、ニュースポーツへの取組に力を入れてほしいという意見がありましたが、先の新聞で掲載された記事では、ふるさと総合公園のスケートボード会場にBMXの国内トップ選手が大会に来たということが報道ステーションでも取り上げられたようです。ボルダリングについても、交付金を使って旧田代小学校に作りたいという声もあるようですので、いろいろ取り組んでいきたいと思います。スポ少などへの支援は、練習施設を開放したりできるのではないかと思います。それから広域的な施設整備についてですが、サッカー場と陸上競技場が一体となった施設とか野球場について検討しており、県の教育委員会にもお願いをしているのですが、寒河江高校の陸上競技場とサッカー場を、寒河江市に譲渡してもらって、山形のあかねヶ丘のように整備できないかと申しあげたところ、検討はしたとのことですが中々難しいとの回答でありました。また寒河江工業高校のグラウンドについて、市も少し支援する代わりに、少しは一般開放してもらいたい等の考えを伝えていきます。広域的な施設を作ることは、どこに作るかで必ずもめます。西村山8万1千人の半分は寒河江市ですが、寒河江市にばかり施設を作ると絶対うまくいかない。点在して行かなければならない。例えば西村山広域行政事務組合みたいなところで管理をしてうまく配置をしていく。2～3カ所の施設をバランスよく配置をして、広域事務組合行政で管理をすることになれば、可能かもしれませんね。そういうやり方でないと中々、グラウンドやサッカー場、野球場を作ることは中々進まない問題でもあります。

一つの自治体としては寒河江市しか作れないことや、安い使用料で済むならその方がよいですからね。ですから、そこら辺の合意形成をしていかないと進まない。合併をしないで、そういった統合した施設をつくることは中々現実的には難しく、理解を得るに時間がかかる。人が少なくなっている中ですから、単独で作るなどは町では賛成が得られない時代になっている状況です。地域の中で住民が気軽に参加できる行事を作っていく、いろんな地域のスポーツ行事には参加するようですが、運動会で走るというよりウォーキン

グというような街を歩く運動のようなものになって来ています。参加しやすいように工夫してやっているようです。そうすることで、孫さんと一緒に歩きながら参加出来、地域・街中で、途中休憩したり、ゲームしたりするようなものが増えてきています。地域の皆さんのいろんな知恵も大事にして行ければと思っております。昔ながらにやっているところが、参加しにくくなっています。それから審判の問題ですが、審判員の養成研修は、どの様になっていますか。

○鈴木隆生涯学習課スポーツ推進室長

はい。昨年の調査では、各競技団体の審判員や指導者資格所持者は高齢の方が年々増えてきている状況がありましたので、今年は審判の資格を取る時、結構お金と時間がかかるものですが、初回は、かかった経費を助成することにしました。後は審判や指導者の資格を持っていても、更に上の資格を取る時にも助成することにしていきます。

○佐藤洋樹市長

どんなスポーツですか。

○鈴木隆生涯学習課スポーツ推進室長

今度、体力測定事業をする予定ですが、その測定をするための資格などがあります。それぞれの競技毎にあり、経費も様々ですが、年会費の様なものは各自が負担するということになっています。

○佐藤洋樹市長

是非そういうものを充実して、活用していただければと思います。

その他、ありませんか。

○松田彌生子委員

今、市長さんからウォーキングの話が出ましたが、私もたまに歩くことがあります。よく朝晩、沢山の方がウォーキングされているのを見かけますが、例えば、二の堰、何キロコースを何分で歩くと、何キロカロリー消費しますとか、高瀬山コースとか、ウォーキングの取組の推進に、市民の方がチャレンジしてみたいくなるコースの設定整備で、おじいちゃんおばあちゃんも孫さん達と一緒に歩くもいいなと思いました。

時々、孫をハートフルセンターゆめは一との遊び場に連れて行くのですが、小さい頃から体を動かしての遊びの習慣はとっても大切だなと思います。トランポリン等のいろんな遊具があり、時々新しいものにバージョンアップしている等、利用者の人も楽しんでいますが、もっと広ければなとも思います。最上川ふるさと総合公園の方には、沢山の屋内遊具があり、子ども達が喜んで遊んでいましたし、おじいちゃんやおばあちゃんも見てら

っしゃる方もおられました。

○佐藤洋樹市長

よろしいですか。その他、ありませんか。なければ、生涯スポーツの状況については、以上と致します。

次に、(3) その他、委員の方から何かありますか。

それでは私の方からですが、子ども達の学力を向上させる方法について、知恵を絞っていただきたい。学力テストの成績の公表はどのようになっているのですか。

○草苺和男教育長

市内の各学校の情報は、校長先生方には伝えました。心して取組を進めるようにと、約一時間かけて話をしております。

○佐藤洋樹市長

それは、学校全体のレベルアップする必要がありますね。全体的レベルアップだから教育委員会が方針を出して進めていくことが大切で、学校任せでは進みませんね。

○草苺和男教育長

教育委員会の対応策も示しながら、各学校でも取り組んでいただきたいと、大部気合を入れてお話しを申し上げたつもりですが。

○佐藤洋樹市長

今県議会開会中ですが、山形県のレベルがあまり高くないということが話題で、つや姫宣伝もいいけれど、そちらの方も頑張らないといけないという意見が出されており、私もそう思います。中々いい知恵がないようですが、何かうまい方法がないですか。

○國井晴彦委員

教育的ではないかもしれませんが、運動とか部活と言うと必ず、あそこの学校からは負けるなどか、あそこの誰々は一番速いとか、地区で一番速いとか、県で一番速いとか、運動面については親も含めて、負けるなど連呼します。その割には学業になるとも、やもやとして最終的に分かるのは中学校を卒業する時、高校に何人入ったかみたいな形しか残らない。もうちょっと、あまり過度の競争にならない位の対抗的なものがあってもいいのではないかと思います。陵西学区が結構いいらしいですが、対抗的なものはどこの中学校からも出て来ない訳です。それが野球だったらあそこに負けるなどなる訳です。負けるなという気持ちが、勉強に置き換えられたらいいなと思います。

○草苺和男教育長

私は、中部小学校と寒河江小学校に勤めさせていただきましたが、中部小学校と寒河江小学校は意外と本家には負けるな、分家には負けるなという、昔からのライバル意識を持っていることは、或る意味いいことだなと思います。

○佐藤洋樹市長

私は、子ども達自身が競争をあおるのは、あまりいいことではないと思っています。子ども達が普通に勉強して全体的のレベルが上がっていく方法が一番いいと思います。

そのために先生方が指導の中で、更にレベルアップの指導をして、結果的に成績が上がっていくということが最適だと思います。そのためにはどういうことが必要なのかを分析をしながら進めてほしいと思います。

○草苺和男教育長

指導方法とか、授業そのものも一番大事なことでありますが、我々は校長先生を通して指導する訳ですが、教室で教える先生方が最前線だと思うので、その先生方をその気にさせて、とにかく何とか学力を上げていかなければならないので、授業をより良いものにしていくことを、心がけて行かないと駄目だという気概をもたないと、何ともならない。そう思っているいろいろ話をしているところです。

○松田彌生子委員

昔の進路指導と最近の進路指導は、変わってきたという話を前にお聞きして、びっくりしたことがあります。例えば中学校だと、この位頑張ると、この位まで行けるから、頑張れなという風に言って、親も子供もそれに向かって頑張ろうというのが、昔の進路指導だったのですが、今はこの位だとこの位だ、からと親も子供も納得してしまうということでした。そこが従来の進路指導と今の進路指導のそこが変わっているからだ、という風言われて、本当にそうなのかなと思いました。やっぱり先生の意識と保護者や子どもの意識を少しずつ変えていくべきだと思います。なんでそこでいいと思ってしまうのか。そこがとっても不思議でした。

○草苺和男教育長

先生と子どもの関係がうまくいっている学級では、学習生活も安定している傾向が見られます。そういう意味では、教師の資質と言われればその通りですが、学級を安定させてしっかり子ども達にその気になって勉強をさせる、力を付けていくという、そういう好循環の関係を作っていくと駄目だなと思っているところです。

○國井晴彦委員

今、中々将来を読みにくい時代だとは思いますが、何のために勉強しなくてはならないのか、将来こういう職業に就きたいとか、こういう人間になりたいという夢みたいなものを、もうちょっと明確にして、そのためにもっともっと勉強しなければならないという、目標を明確にしていくような、授業や方向性をもつことで勉強を頑張らせることが出来ないかと思ったりもします。

○佐藤洋樹市長

学力の問題は、スポーツみたいに保護者の人が言わないですが、気持ちの中では持ってほしいと思います。大事なことですから、頑張ってもらいたいと思います。

その他、ありませんか。よろしいですか。

4 その他

○國井協一学校教育課課長補佐

慎重なご協議ありがとうございました。4のその他ですが、第2回目の総合教育会議を来年2月中旬位を目途に、開催を予定しますので、日程調整方ご協力をお願いいたします。

5 閉会

○國井協一学校教育課課長補佐

それでは、長時間にわたるご協議、誠にありがとうございました。以上を持ちまして、第2回寒河江市総合教育会議を閉会したいと思います。大変ご苦勞様でございました。

午後4時36分 終了